

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～

滝川市教育委員会
(担当：教育総務課)

1 調査の概要

(1) 実施期日 平成30年4月17日(火)

(2) 調査の対象学年

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象

(3) 調査の内容

①教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題

小学校(国語A：12問、算数A：14問、)

中学校(国語A：32問、数学A：36問)

- ・主として「活用」に関する問題

小学校(国語B：8問、算数B：10問)

中学校(国語B：9問、数学B：14問)

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

理科

小学校：16問

中学校：27問

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うている。

(4) 参加状況(悉皆調査)

小学校6校 中学校4校

(5) 参加児童生徒数(下表)

小学校第6学年	学 校	対象児童数	受験者数	未受験数	中学校第3学年	学 校	対象生徒数	受験者数	未受験数
	滝川第一小	39	39	0		江陵中	119	113	6
	滝川第二小	78	76	2		明苑中	133	126	7
	滝川第三小	61	61	0		開西中	53	51	2
	西小	52	50	2		江部乙中	14	14	0
	江部乙小	10	10	0					
	東小	85	83	2					
	計	325	319	6		計	319	304	15
参加率	98. 2%			参加率	95. 3%				

2 教科に関する調査の結果

全国・全道の平均正答率に対し、本市の児童生徒の平均正答率を
上回っている(5%以上)、やや上回っている(3%以上5%未満)、
同程度(上位)(1%以上3%未満)、同程度(±1%未満)、同程度(下位)(-3%より上-1%以下)
やや下回っている(-5%より上-3%以下)、下回っている(-5%以下) で示した。

(1) 小学校

- ①【国語 A】 主として「知識」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(70.7%)、全道の平均正答率(70.0%)と同程度(下位)の正答率である。
- ②【国語 B】 主として「活用」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(54.7%)、全道の平均正答率(53.0%)をともにやや下回る正答率である。
- ③【算数 A】 主として「知識」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(63.5%)をやや下回り、全道の平均正答率(62.0%)と同程度(下位)の正答率である。
- ④【算数 B】 主として「活用」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(51.5%)、全道の平均正答率(49.0%)をともに下回る正答率である。
- ⑤【理科】 「知識」「活用」をともに問う問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(60.3%)、全道の平均正答率(59.0%)と同程度(下位)の正答率である。

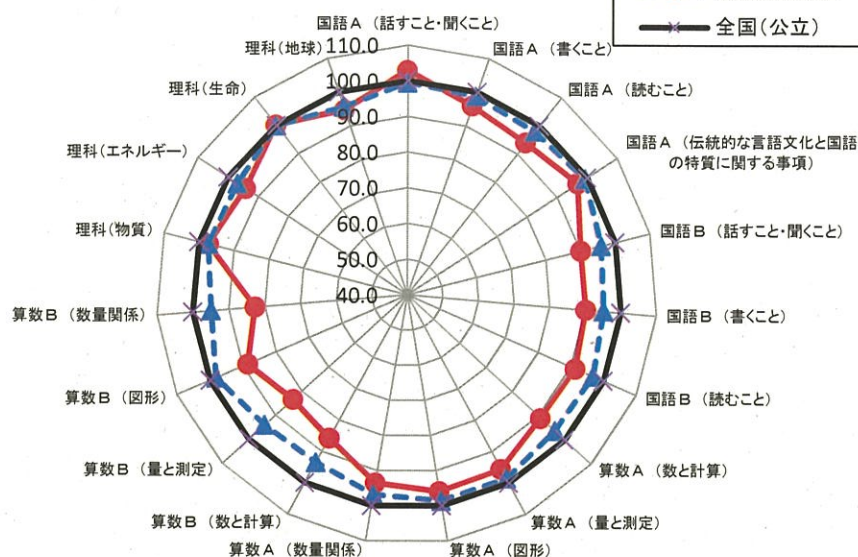
(2) 中学校

- ①【国語 A】 主として「知識」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(76.1%)と同程度(下位)、全道の平均正答率(77.0%)をやや下回る正答率である。
- ②【国語 B】 主として「活用」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(61.2%)、全道の平均正答率(61.0%)をともに下回る正答率である。
- ③【数学 A】 主として「知識」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(66.1%)を下回り、全道の平均正答率(65.0%)をやや下回る正答率である。
- ④【数学 B】 主として「活用」に関する問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(46.9%)、全道の平均正答率(46.0%)をともに下回る正答率である。
- ⑤【理科】 「知識」「活用」をともに問う問題
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(66.1%)、全道の平均正答率(67.0%)と同程度(下位)の正答率である。

3 滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：319名）

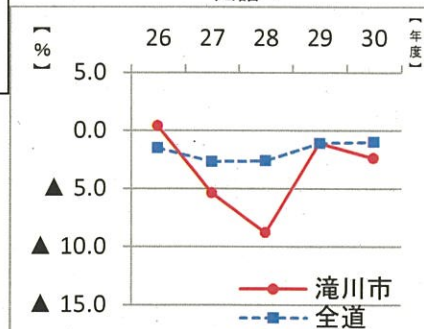
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）

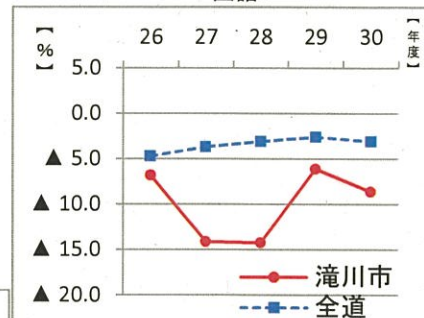


※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を
経年変化で表したもの。

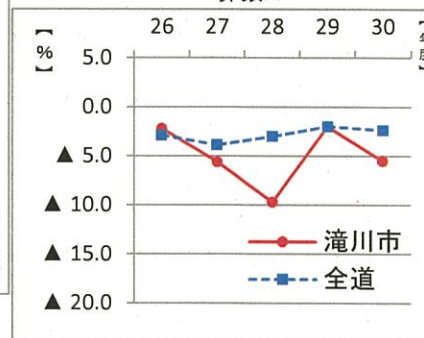
国語A



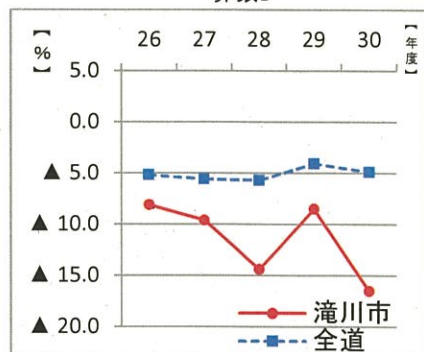
国語B



算数A

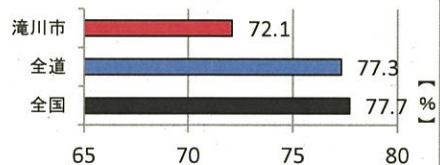


算数B

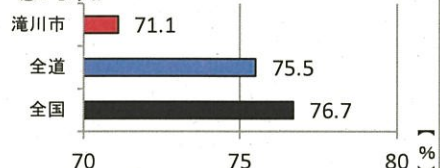


【児童質問紙調査】

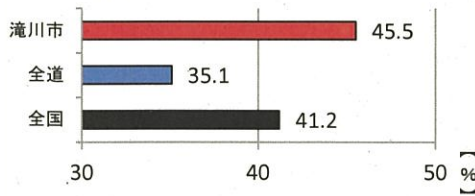
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



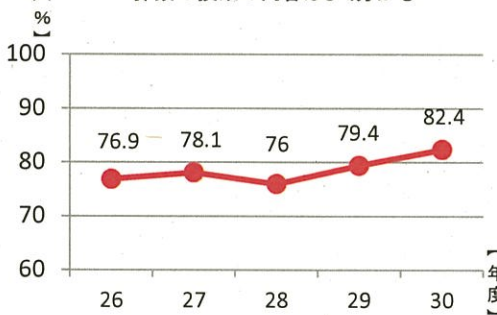
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



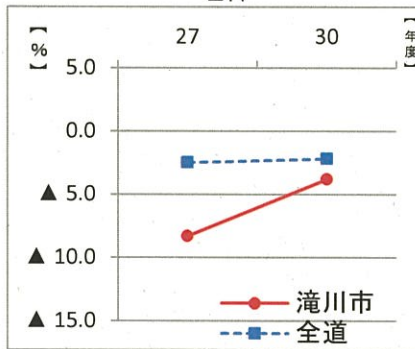
理科の授業では、理科室で観察や実験を週1回以上行った



算数の授業の内容はよく分かる



理科



【分析】

教科	今年度は、理科の平均正答率が全道・全国平均に近づく伸びを見せた。週1回以上の実験や観察が授業で行われたことにより、児童の目的意識が明確となり、実感を伴った理解を図ることができたと考えられる。領域別に全道の平均正答率と比較すると、国語Aの「話すこと・聞くこと」、理科の「生命」は上回っているが、算数Bの「数と計算」及び「量と測定」、「数量関係」は差が大きく、苦手としている傾向が見られた。	学校は、児童の姿や地域の特徴、各種調査結果等に基づき、教育課程を編成し、PDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、組織的に授業改善に取り組んできた。今後はさらに児童の学力傾向を精密に分析し、課題となっている領域の力を高めるために、授業では「話し合う活動」や「振り返る活動」を意図的・計画的に取り入れた。放課後等では学習サポートを充実させたりする等の手立てを講じる必要がある。
児童質問紙	算数の授業がよく分かる」と回答した割合は、昨年より3%の伸びが見られた。しかし、学習内容の定着には至っていないことが、算数Aと算数Bの結果から見て取れる。今後、授業における友達との対話や学びの振り返り、家庭での学習の習慣の確立に向けた取組を通して、学習内容の確実な定着を図るとともに、自らすすんで課題に働きかける主体的な態度の育成に努める必要がある。	
学校質問紙	「学習規律の維持を徹底した」「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」「前年度に理科の授業において、理科室で観察や実験を1クラス当たり週1回以上行った」と回答した学校が多い。	

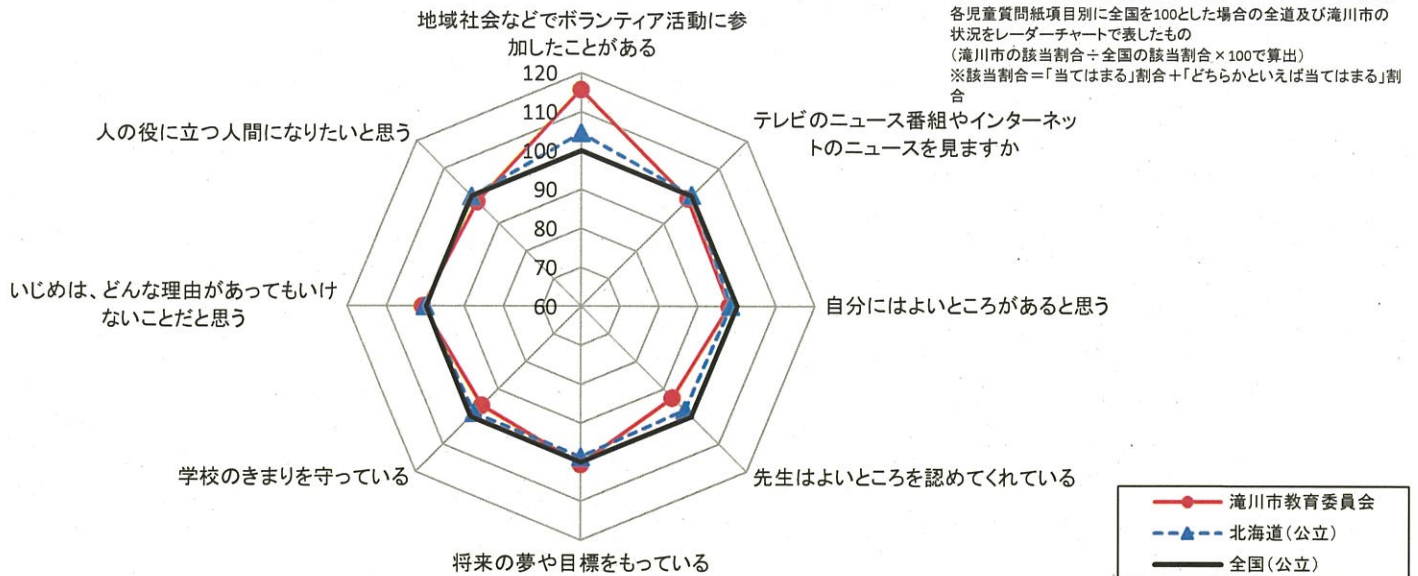
【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- ティーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、一人一人の児童が抱える学習のつまずきの解消や発展的な学習の充実に取り組んでいる。
- 小学校3・4年生に対して「少人数学級実践事業」を導入し、児童一人一人へのきめ細やかな指導・支援を行い、理解度や興味・関心の向上を図っている。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習に取り組ませるとともに、児童の家庭学習への意欲・定着化を図っている。
- 授業改善推進チーム活用事業を活用した学校間の取組の発信・共有による積極的な授業改善を推進している。
- ◎各小学校において主体的・対話的で深い学びを実現するために必要な情報の発信に努める。

4 滝川市立小学校の学習状況及び改善策(学校数:6校、児童数:319名)

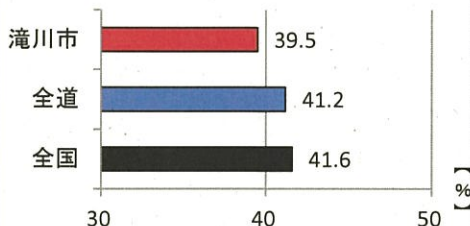
【自尊心及び規範意識等全体の状況】

各児童質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出)
※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合



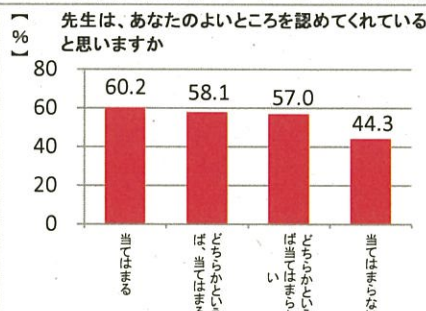
【地域との関わり】

地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか



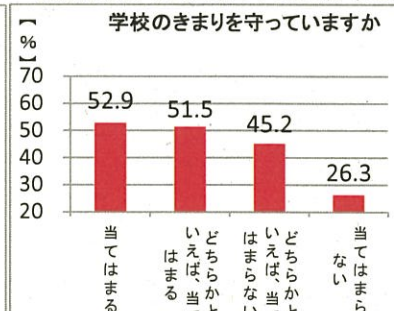
【他者からの評価】

(自尊心と理科平均正答率との相関)



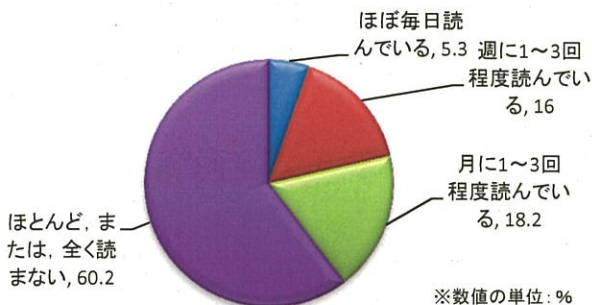
【規範意識】

(規則の遵守と国語B平均正答率との相関)

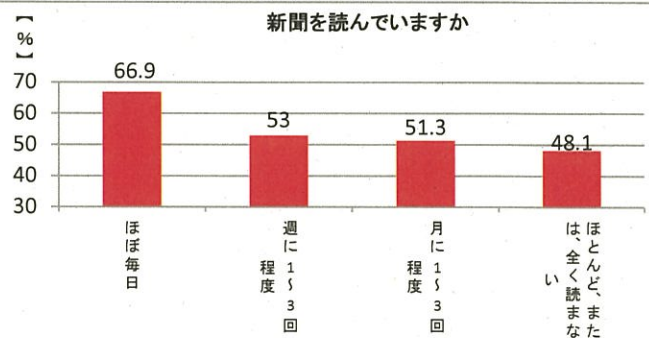


【社会への意識】

新聞を読んでいますか

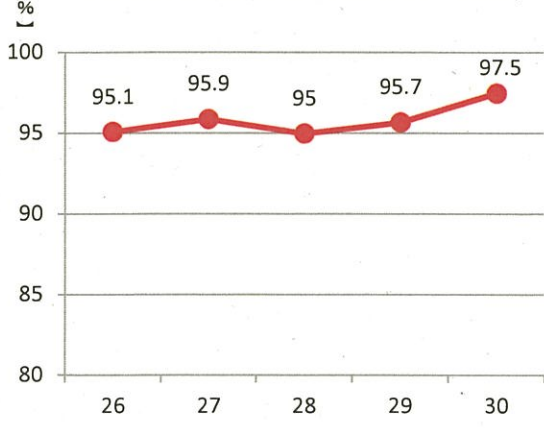


(新聞を読む頻度と国語B平均正答率との相関)



【いじめへの意識】

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



【分析】

○地域社会等でのボランティアの経験は、3年連続で全国平均を超えており、学校や家庭での働きかけや児童を取り巻く大人の姿を通して意欲化が図られたものと思われる。しかし一方で、地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする児童の割合が低いことから、社会全体で子どもを育てるという意識を共有する必要がある。
○規範意識については、全道及び全国平均を下回っている。規則を遵守することと国語Bの平均正答率には相関関係が見られ、他の教科においても同様であることから、規則を遵守する意識の高揚に努める必要がある。
○「新聞をほとんど、または、全く読まない」と回答した児童の割合は、全道を上回っている(多いものの、全国を下回った(少なかった)。新聞を読む頻度と国語Bの平均正答率との相関関係が見られるため、授業等で社会とのつながりを意識させる方を講じる必要がある。

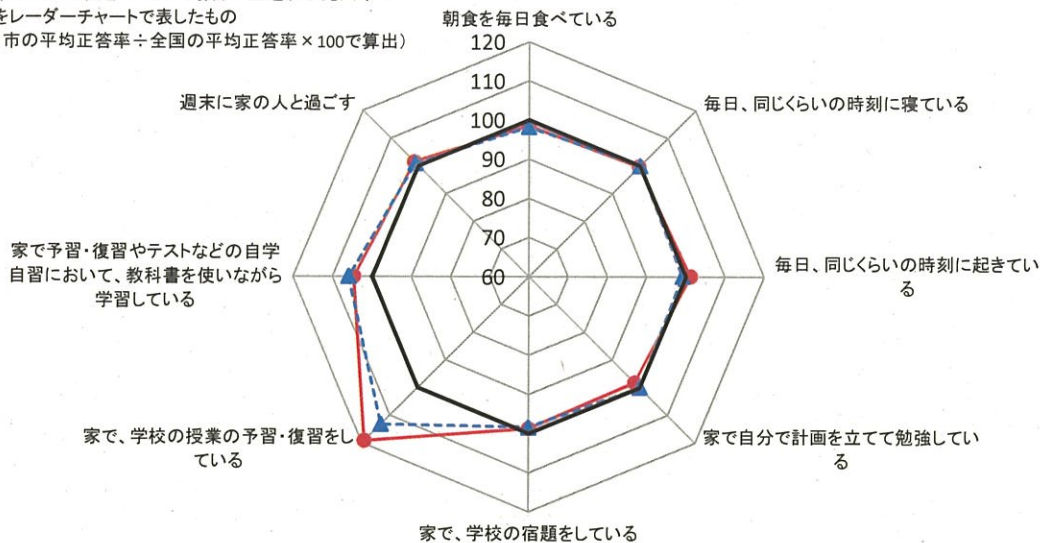
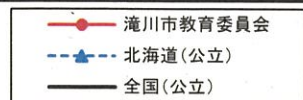
【滝川市の改善策】

◎「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合が、3年連続で伸びており、それは、全道・全国よりも高くなっている。滝川市は100%となるよう目標を掲げて施策を推進しており、今後も児童・家庭への一層の啓発と小中9年間を通じた子どもの心の成長を意識した主体的な活動が行われるよう支援する。
◎「先生はよいところを認めてくれている」と回答した割合は、全道・全国を下回っている。しかし、学校質問紙において、市内の小学校は「よく行った」「どちらかといえば、行った」のいずれかで回答しており、子どもたちと学校側の受け止め方に温度差がある。また、理科の平均正答率をはじめ、他の全ての教科において、自尊心と相関関係が見られることから、今後、子どもたちに対して深く丁寧に、心に響く対応を心がけるよう働きかける。

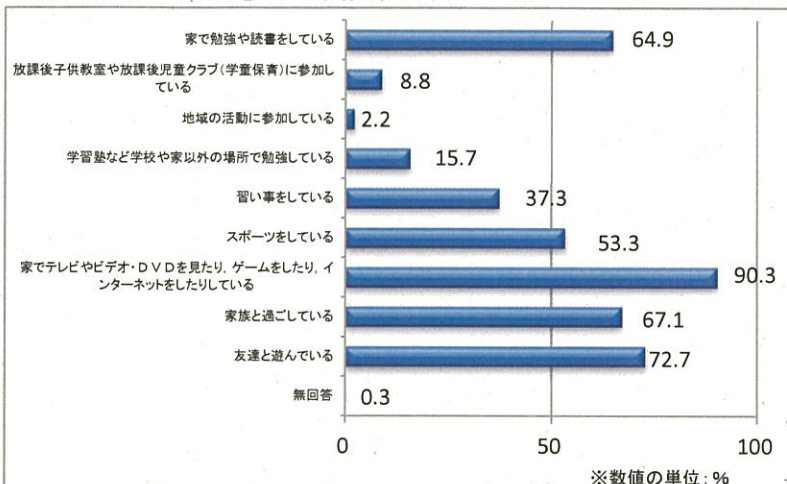
5 滝川市立小学校の学習状況及び改善策(学校数:6校、児童数:319名)

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

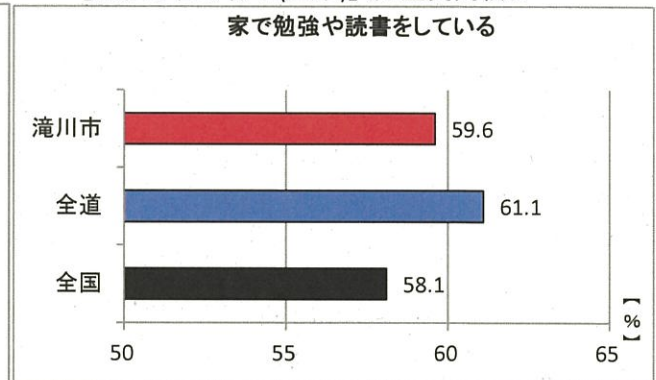
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



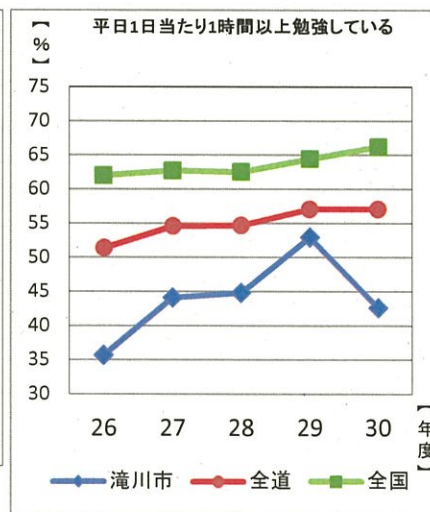
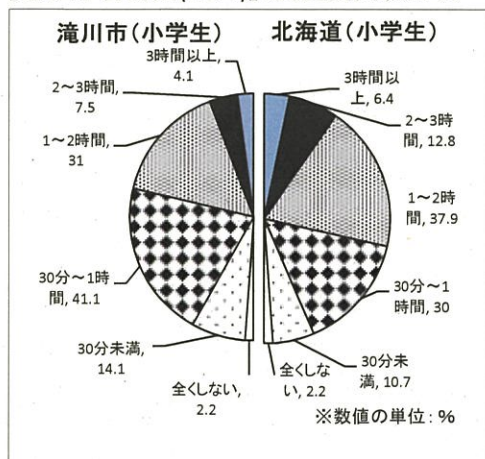
【放課後の過ごし方】(児童質問紙より)



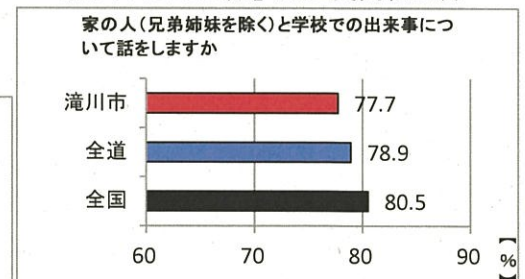
【家庭学習の様子(週末)】(児童質問紙より)



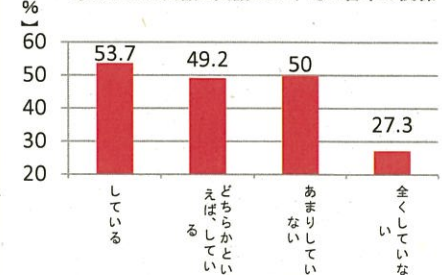
【家庭学習時間(平日)】(児童質問紙より)



【家の人との会話】(児童質問紙より)



【家の人との会話と国語日の平均正答率の関係】



【分析及び改善策】

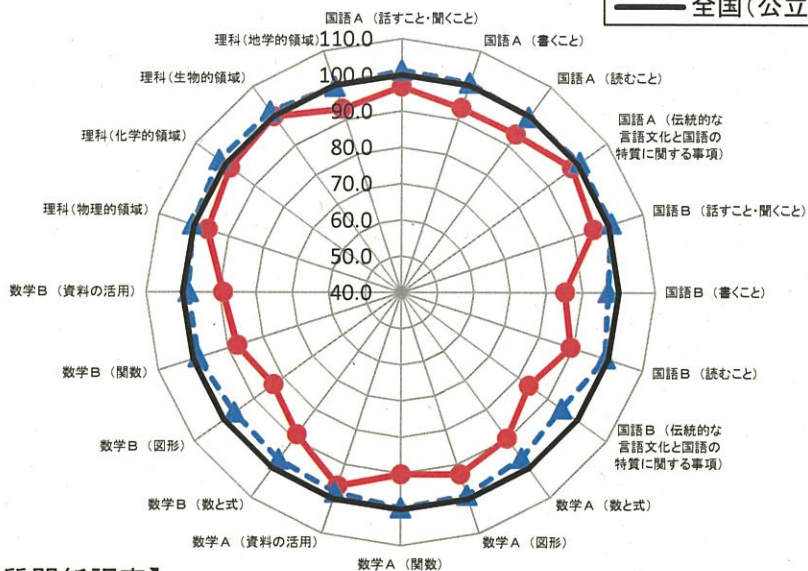
○平日、学習塾など家以外の場所で勉強している児童は、15.7%となっているが、これは、全国の割合の半分以下の数値となっており、全道と比べてみても少なくなっている。また、「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童の割合を経年変化で見ると、ここ2、3年で一番低い数値となっている。しかし、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童の割合は、全道・全国の割合を上回っている。また、「家で、学校の宿題をしている」「(週末)家で勉強や読書をしている」と回答した児童の割合は、それぞれ全道、全国の割合を上回っていることから、今後は、平日及び週末の家庭学習が量と質の両面において充実したものとなるよう、宿題の工夫改善や学習方法について教える等の手立てが必要である。

○放課後に家族と過ごす児童の割合は、全道・全国と同じ割合となっており、週末になると、家族と過ごす割合は、全道・全国の割合を上回っている。しかし、家の人と学校での出来事について話す児童の割合は、全道・全国の割合よりも低くなっている。さらに、家の人との会話と国語日の平均正答率の関係をみると、会話をしている場合と全くしていない場合とでは、大きな差が見られることから、会話の場を「自分の言葉で、自分の考えを表現できる場」として捉え、保護者へ子どもとの関わりを意識するよう働きかける必要がある。

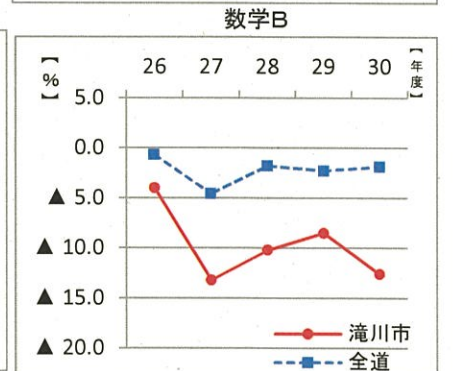
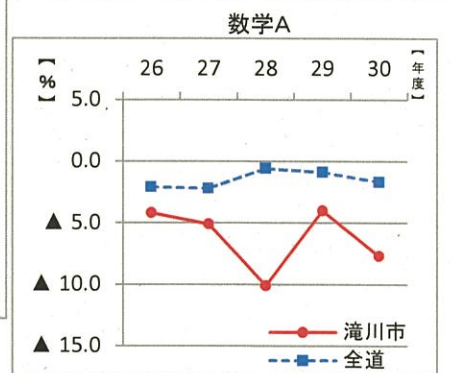
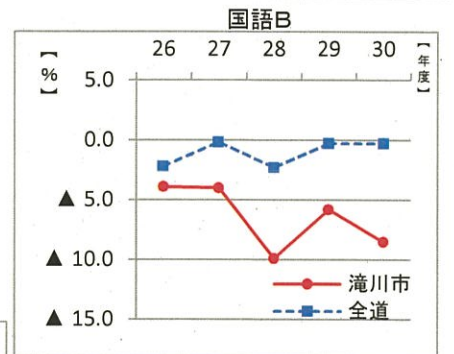
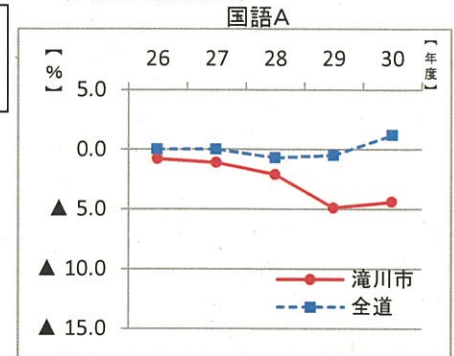
6 滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策(学校数:4校、生徒数:304名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの
(滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

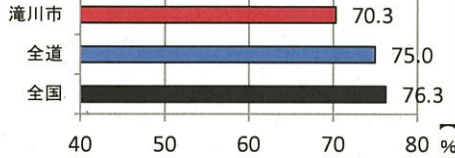


※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を
経年変化で表したものの。

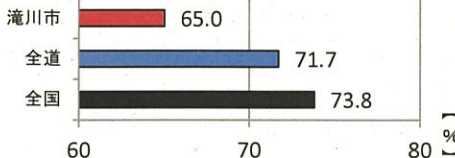


【生徒質問紙調査】

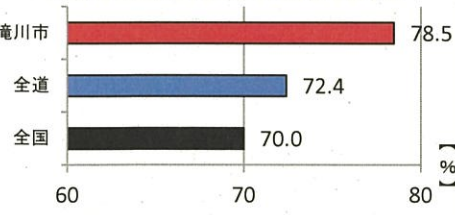
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



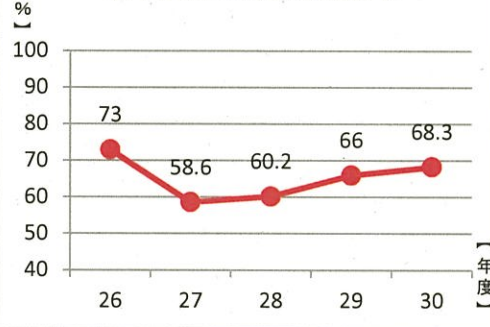
1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



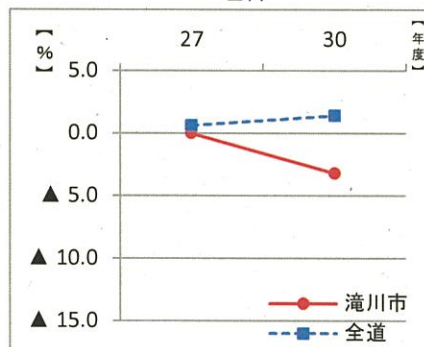
理科の授業の内容は、よく分かりますか



数学の授業の内容はよく分かる



理科



【分析】

教科	国語Aについては、全国平均正答率との差を縮めたが、他のすべての教科と同様に全国平均を下回っている。領域別に全道の平均正答率と比較すると、理科の「生物学的領域」は、同程度となっているが、国語Bの「書くこと」及び「伝統的な文化と国語の特質に関する事項」、数学Bの「図形」は差が大きく、苦手としている傾向が見られた。	学校は、生徒の姿や地域の特徴、各種調査結果等に基づき、教育課程を編成し、PDCAサイクルを確立させた。また、生徒の学習状況や課題を全教職員で共有し、組織的に授業改善に取り組んできた。今後はさらに生徒の学力傾向を精密に分析し、課題となっている領域の力を高めるために、基礎学力を定着させるとともに、授業中、生徒の興味・関心、意欲を喚起させたり、「振り返る活動」を計画的に取り入れたりしながら、主体的な学びへと繋がる手立てを講じる必要がある。
生徒質問紙	数学の授業内容がよく分かったと回答した割合は、昨年よりも2%以上の伸びが見られた。しかし、学習内容の定着には至っていないことが、数学Aと数学Bの結果から見て取れる。理科においても、同様な傾向が見られることから、学習内容を定着させるために、友達との対話を通して学習の深まりを感じさせたり、課題の吟味や発問の工夫により、生徒の興味・関心を高めたり、指導計画及び指導方法の工夫改善に取り組んだりする必要がある。	
学校質問紙	「学習規律の維持を徹底した」「学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付けて評価する取組をよく行った」「前年度に理科の授業において、理科室で観察や実験を1クラス当たり週1回以上行った」と回答した学校が多い。	

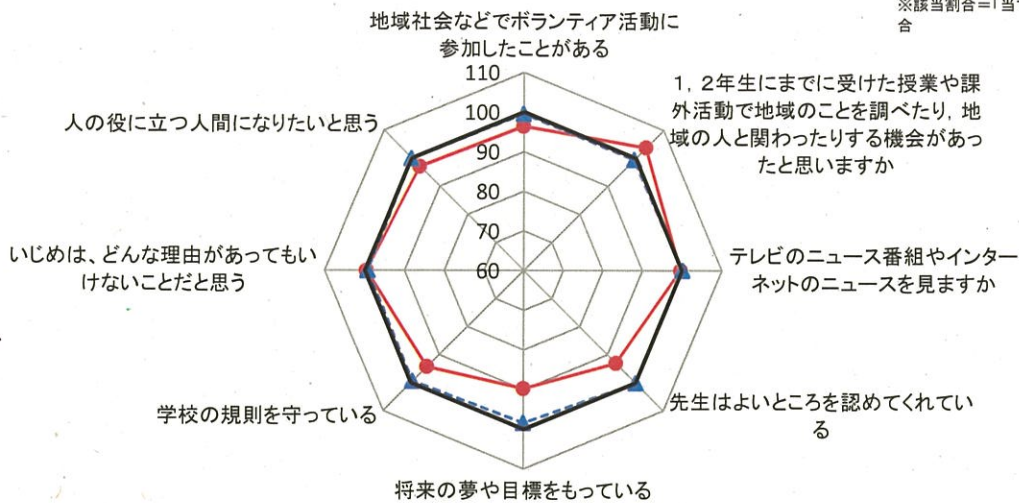
【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している
- 学力の二極化を解消するため、チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、基礎・基本を確実に習得させ、知識・技能の定着を図っている。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。校区小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習への取組を推進している。
- ◎各中学校において主体的・対話的で深い学びを実現するために必要な情報の発信に努める。

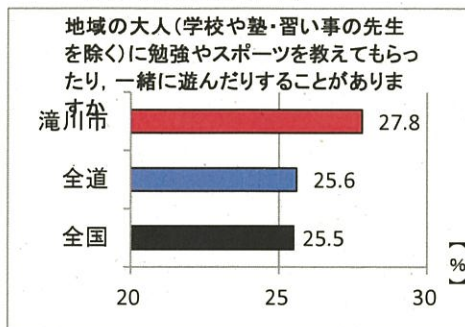
7 滝川市立中学校の学習状況及び改善策(学校数:4校、生徒数:304名)

【自尊感情及び規範意識等全体の状況】

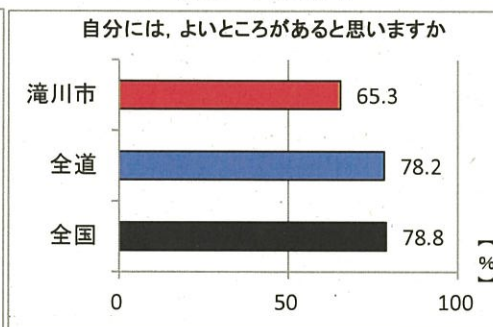
各児童質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出)
※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合



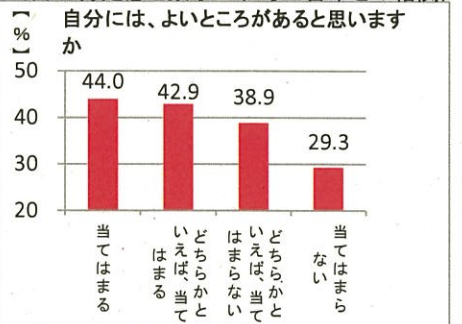
【地域との関わり】



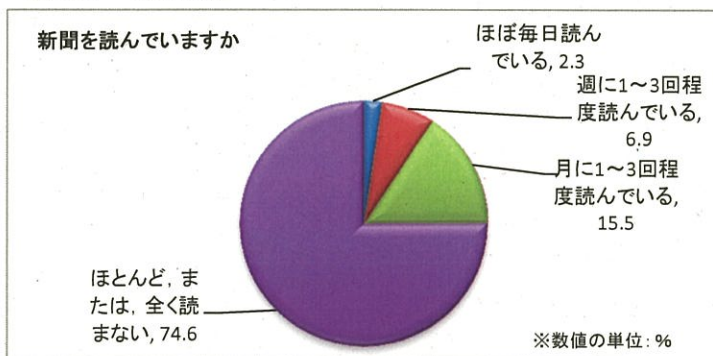
【自己肯定感】



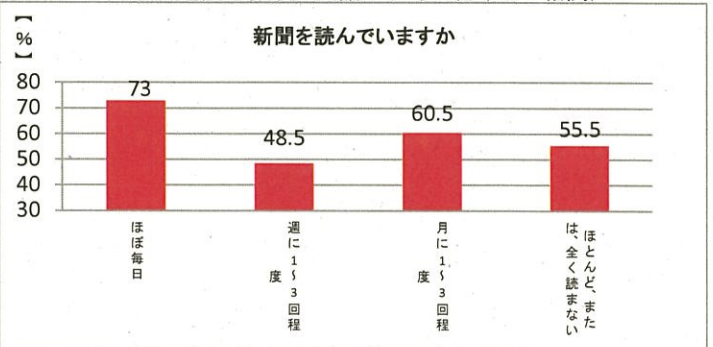
(自己肯定感と数学B平均正答率との相関)



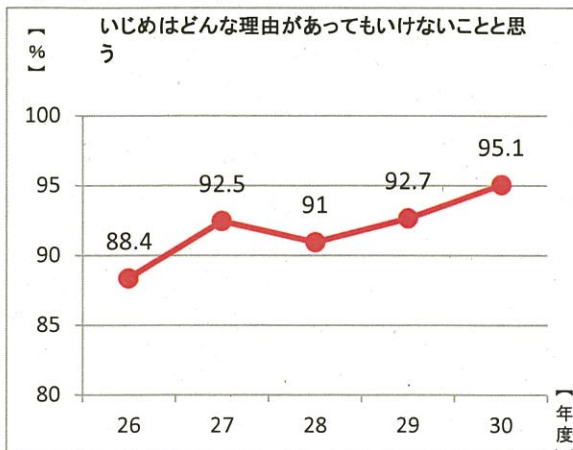
【社会への意識】



(新聞を読む頻度と国語B平均正答率との相関)



【いじめへの意識】



【分析】

○学校内外で、地域の「人」や「こと」との関わりは、全道・全国の平均を上回っていることから、これまで地域一体となった活動が展開されていることが分かる。一方で、地域社会への貢献活動については消極的であることから、積極的な働きかけが必要である。
○テレビやインターネットを通じてニュースを見ている生徒の割合は、全道及び全国と変わらないが、新聞を読む生徒の割合は、全道及び全国を下回っている。新聞を読む頻度の多さと国語Bの平均正答率には相関関係が見られるため、授業で新聞やテレビやインターネット、それぞれのよさを考えさせる等、社会への意識を高める方を講じる必要がある。
○将来の夢や希望をもっている生徒の割合は、全道・全国平均を下回っている。今後、日々の一つ一つの活動において、生徒自身がPDCAサイクルを意識できるような働きかけが必要である。また、各中学校のキャリア教育において、職場体験が行われており、今後も、事業所の方との交流を通じ、人の価値観や生き方に触れることで、生徒自身が生き方を見つめ、将来への目標を設定できる活動となることが求められる。

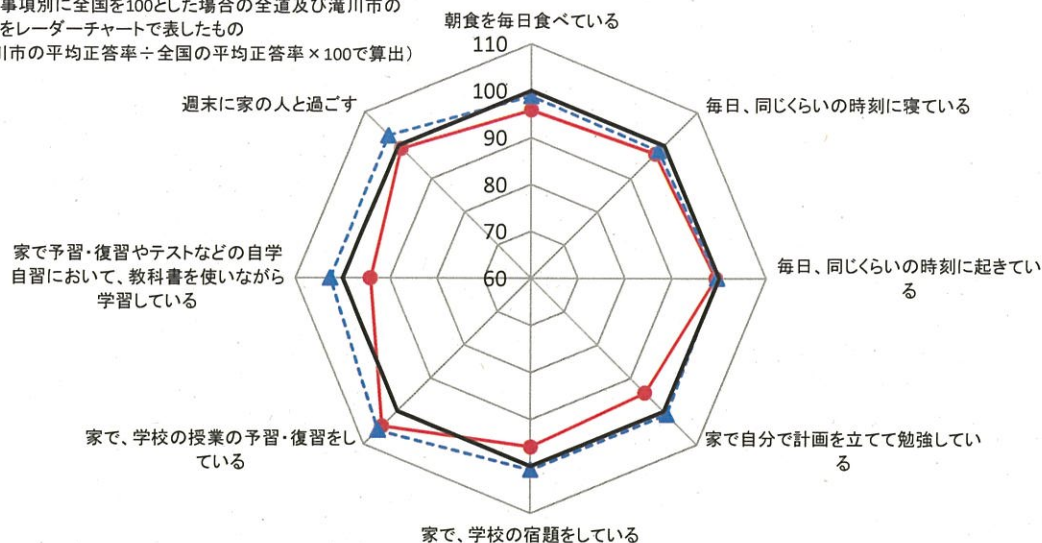
【滝川市の改善策】

◎「いじめはどんな理由があってもいけないことと思う」と回答した割合が、3年連続で伸びており、それは、全道よりも高くなっている。滝川市は100%となるよう目標を掲げて施策を推進しており、今後も生徒・家庭への一層の啓発と小中9年間を通じた子どもの心の成長を意識した主体的な活動が行われるよう支援する。
◎自己肯定感、全道及び全国平均を下回っている。自己肯定感の高さと数学Bの平均正答率には相関関係が見られるため、生徒との積極的な関わりを通じて、生徒自身が自分自身を価値ある存在と感じられるような指導に努めるよう働きかける。

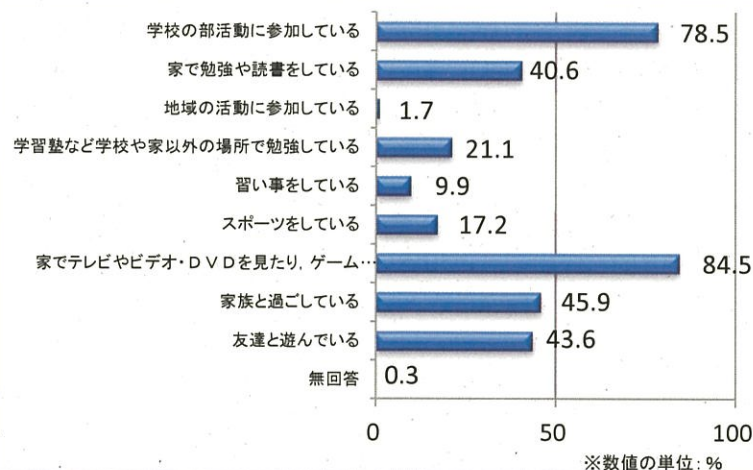
8 滝川市立中学校の学習状況及び改善策(学校数:4校、生徒数:304名)

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

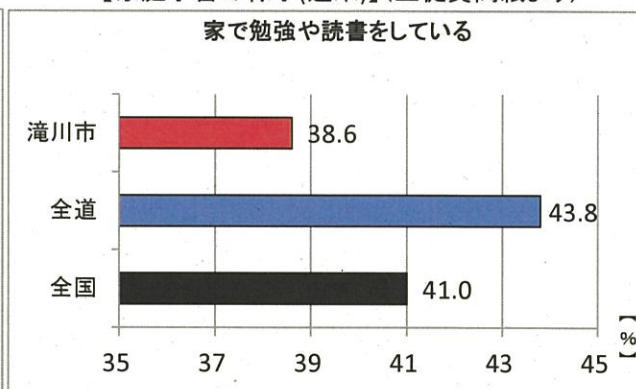
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)



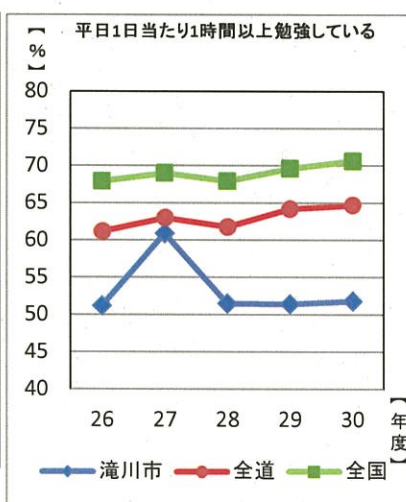
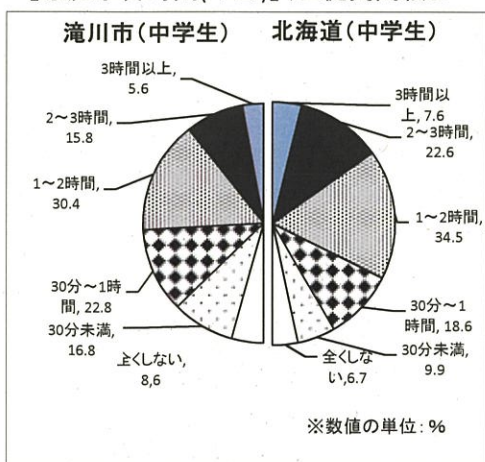
【放課後の過ごし方】(生徒質問紙より)



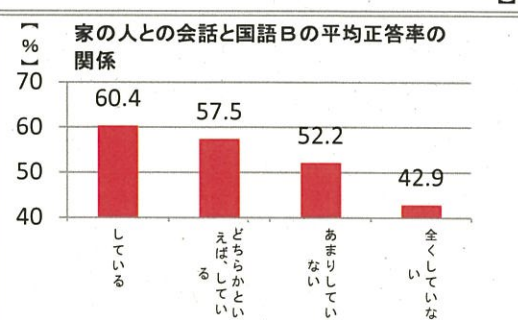
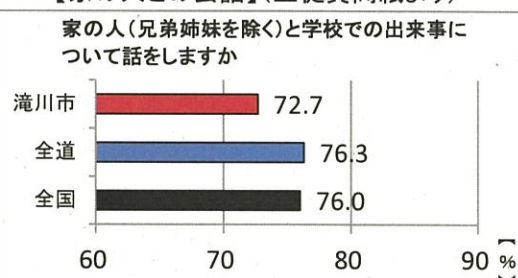
【家庭学習の様子(週末)】(生徒質問紙より)



【家庭学習時間(平日)】(生徒質問紙より)



【家の人との会話】(生徒質問紙より)



【分析及び改善策】

○平日、学習塾など家以外の場所で勉強している生徒は、21.1%となっているが、これは、全国の割合の半分の数値となっており、全道と比べても少ない。さらに、週末、家で勉強や読書をしている生徒の割合も、全道、全国の割合を下回っている。また、「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した生徒の割合を経年変化で見ると、ここ3年全道・全国の割合よりもそれぞれ約10%、約20%下回っている状況で推移している。しかし、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した生徒の割合は、全国の割合を上回っていることから、今後は、質と量の両面において充実した家庭学習となるよう、宿題の工夫改善や学習方法について教える等の手立てが必要である。

○家の人と学校での出来事について話す生徒の割合は、全道・全国の割合よりも低くなっている。しかし、家の人と会話をしている生徒ほど国語日の平均正答率が高いことから、会話の場を自分の言葉で自分の考えを表現できる場として捉え、保護者へ子どもとの関わりを意識するよう働きかける必要がある。同時に、起床時刻や朝食の摂取等、望ましい生活習慣の確立に向けても、家庭と学校が連携する必要がある。

9. 全国学力・学習状況調査 5年間の推移(●=滝川市)

	範 囲	国語A					国語B					算数A					算数B					理科	
		H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H27	H30
小学校	高 い	$5\% \leq x$	▼	▼		▼	▼	▼		▼				▼	▼							▼	▼
	やや高い	$3\% \leq x < 5\%$			▼							▼				▼	☆	▼					
	同 程 度 (上 位)	$1\% \leq x < 3\%$	☆ ●	☆	☆		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆		☆	☆	☆	☆	☆	☆
	全 道 と 同 程 度	$-1\% < x < 1\%$				● ☆						●			●								
	同 程 度 (下 位)	$-1\% \geq x > -3\%$		●		●	●		▼	●		▼	●		●		●	●		●			●
	やや低い	$-3\% \geq x > -5\%$	▼	▼	●				▼		●				▼		▼	▼	●			●	
	低 い	$-5\% \geq x$			▼	▼	▼	▼	●	▼	▼		▼	●	▼	▼			▼	▼	●	▼	▼
中学校	高 い	$5\% \leq x$				▼	▼		▼			▼		▼		▼					▼		▼
	やや高い	$3\% \leq x < 5\%$		▼	▼			▼			▼		▼		▼				▼	▼	☆	▼	
	同 程 度 (上 位)	$1\% \leq x < 3\%$					☆		☆			☆	☆		☆		▼	☆		☆			
	全 道 と 同 程 度	$-1\% < x < 1\%$	☆ ●	☆	☆	☆	●	☆		☆	☆			☆	☆		☆	▼	☆			☆ ●	☆ ●
	同 程 度 (下 位)	$-1\% \geq x > -3\%$	▼	●			▼	●		▼		●	●		●		●						
	やや低い	$-3\% \geq x > -5\%$			●	●				●	▼	▼				●	▼	●	●	●		▼	
	低 い	$-5\% \geq x$		▼	▼	▼		▼	●		●		▼	●	▼	▼		▼	▼		●		▼

☆は、全道と比較した全国